3　地域づくりに参画する若者を育てる　ー 家庭教育・学校教育・社会教育の役割 ー

家庭教育

○家族が地域に関心をもち、地域でどのような取組が行われているのかなど、地域活動の情報を家庭内で（世代を超えて）共有すること。
○子どもとその家族が、地域活動への参加を通じて地域とつながること。
○地域をより良くしようとする地域貢献の意識をもつこと。

学校教育

○社会参画するための土台（基盤）となる主体性やコミュニケーション能力、自己有用感を高める取組を進めること。
○多様な人とのふれあいや他者と協働する体験などの社会参画の基盤となる活動を計画的・継続的に実施できるようにすること。
○「郷土を愛し地域で活躍する子どもを育てよう」という目的を教職員や保護者、地域で共有し、連携・協働すること。

社会教育（公民館）

○公民館職員は地域団体の情報の収集・発信などを通じて、団体間をつなぐコーディネーターとしての役割を担うこと。
○施設利用者（来館者）の情報だけではなく、施設の外の情報を収集するためのアウトリーチを進めること。
○若者の地域活動への参画を促すために、若者の声を活かして事業を企画・立案すること。
○これからの地域づくりにおいては、年齢、性別、地域における役職等を問わず、多様な人々の参画ができるよう、交流・協働できる環境づくりを進めること。

家庭教育、学校教育がそれぞれの役割を果たすためには、地域と学校が連携・協働することが効果的である。今後、公民館のネットワーク機能を生かしたコーディネートにより、地域と学校が連携・協働する体制を充実させていく必要がある。

おわりに

今回、「若者とこれからの地域づくり」についてテーマを設定し、以後、２年間にわたり協議を進めてきました。今日の地域社会の現状から、課題を解決し、より活性化した地域づくりを持続的に進めるには、若者の地域活動への参画を促し、現在、地域活動を支えている多様な人材との協働が必要であります。それらを実現するには、「若者の地域参画を促すきっかけづくり」、「公民館を核としたつなぐ機能の充実」、「活動を企画・推進する人づくり」の３つのポイントで施策を進めることが重要であるとまとめました。

議論のまとめを受け、地域社会の活性化を目指して地域活動を支援する役割を担っている社会教育行政に、具体的施策の企画・推進を期待します。

検討経過
・これからの地域づくりのあり方について
（令和３年３月　臨時会）
・若者とこれからの地域づくりについて
（令和３年７月　定例会）
（令和４年２月　臨時会）
（令和４年７月　定例会）
・議論のまとめ（報告書）について
（令和４年９月　小委員会）
・報告書（案）について
（令和５年２月　臨時会）

群馬県社会教育委員会議
（令和３年３月１７日～令和５年３月１３日）
◇議　長　　櫻井　常矢
◇副議長　　志村　隆雄
◇委　員（五十音順）

青木　美幸	青柳　明美	天田　敏明
岩下　浩明	大竹　恵子	北原　和久
清田　和泉	佐藤絵李奈	市東　　剛
平　　俊夫	髙橋　　寛	野口姫夜美
藤井　麻里	本郷　容子	三友　　正
涌沢　雅子		

群馬県教育委員会　生涯学習課　　〒371-8570 前橋市大手町１－１－１　　TEL：027－226－4666

群馬県社会教育委員会議　議論のまとめ　　令和５年３月

若者とこれからの地域づくり

はじめに

各地では、高齢化と人口減少による地域の担い手不足、各種団体の解散などがコロナ禍も重なるなかで深刻化してきており、地域社会を支える社会教育にとっては看過できない状況が現れてきています。これに対して、特に地域づくりへの若者の参画は、持続可能な地域をつくる上でも、若者の学びの場としても重要な視点であると捉えています。

私たちは２年間の検討を通じて、柔軟な発想や様々な工夫を取り入れた群馬県内の社会教育実践から多くを学ぶことができました。従来の社会教育は、世代別、テーマ別に組織化された地域団体を中心に展開してきていますが、今回の検討を通じて見えてきたことのひとつが、世代間、団体間など私たちの社会の間（あいだ）にこそ社会教育の役割があるということです。この議論のまとめが、今後の社会教育の一助となることを願っています。

1　地域づくりに若者の参画が求められる背景

群馬県の今後の課題

○県内のほとんどの市町村が人口減少に転じ、2040年には市町村としての機能が難しくなるところが多くあることが予想されている。そのため、それぞれの市町村における地域づくりをどのように進めるかが大きな課題である。

群馬県の推計人口
2018年：195.2万人
↓　　▲16%
2040年：163.8万人
↓　　▲21%
2060年：128.8万人
※第２期群馬県版総合戦略より

地域づくりを進める上での課題

○現在、地域づくりに携わっている人たちは、中高年以上の年齢層が多く、活動に偏りがあり、同じメンバーがいつも活動している状況も見られる。

社会教育に期待される役割

○今後、人口減少など社会の大きな変化の中にあって、住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上に役割を果たすことが期待されている。
※H30.12　中教審答申より

若者が参画するメリット

○地域住民の参画意欲に好影響を与え、活動の広がりと循環につながる。
○地域づくりの活動を通して、先行き不透明で複雑なこれからの社会を生きる上で必要とされる、新たな考えや価値を生み出していく力を多様な人々と協働しながら身に付けることができる。

若者が地域づくりに参画する仕組みを意識的につくる必要があり、社会教育の立場からどのようなことに関わっていくのか協議することとした。

本会議では、「若者」を「高校生から大学生・社会人までの年代」、「地域づくり」を「住民が生き生きと過ごし地域全体が発展すること」と捉えている。

2　若者の参画に向けた体制づくり

若者が地域づくりに参画する上での課題

○地域において若者の意見を受け入れる機会や若者の主体性を発揮できる場面が少ない。
○地域の中で若者をつなぐ機能が弱い。
○地域づくりの活動への入り方や相談窓口が分からない。
○若者が求めているやりがいや活動と、地域から与えられた役割との間にギャップがあり、若者は地域に対してマイナスのイメージをもっている。

世代間の認識の差や若者の地域へのマイナスイメージを払拭し、価値感や考え方の違いを若者と地域の双方で乗り越える必要がある。

取組紹介　多様な主体と連携し地域づくりに参画する若者たち

※各取組の詳細につきましては、各市町またはNPO等の団体のホームページ（HP）を御参照ください。

取組１　NPO等の団体と学生との連携

学生団体「０号館プロジェクト」ＨＰ

０号館での地域活動（高崎市）

０号館は、築100年の古民家を改修した大学生と地域住民、地域住民同士をつなぐコミュニティスペースである。この０号館を拠点として、大学生を運営主体とした一般社団法人０号館と地域の団体や人々が協働し、様々な取組を行っている。

【ポイント・成果】　一般社団法人０号館は、地域と大学生を結び付けることを軸に活動を行っている。地域のＮＰＯと連携した学習支援や子ども食堂を行っている団体への協力、地産地消とフードロス削減を目指す年２回の野菜直売会の開催や建物の貸し出し等に取り組んでいる。また、公民館とも連携し、小学校低学年までを対象とした節分やひな祭りイベント、学習指導、地域の高齢者を対象にしたスマホ講座等を行っている。学生と地域が連携した地域貢献活動が行われている。

取組２　若者が立ち上げたNPOと教育委員会の連携

前橋市高校生学習室ＨＰ

前橋市高校生学習室（前橋市）

「自主的な学びの場を提供し、利用する高校生の希望の実現への一助とする」、「利用した高校生と卒業後も関わりを持ち続けることで、地元定着やUターンの促進を図る」、「交流を通じて、多様性を育み、次世代を担う人材を育成する」ことを目的に、若者が立ち上げたＮＰＯが運営している。

【ポイント・成果】　「前橋駅前に勉強するスペースを作ってほしい」という高校生の声を受け、教育委員会が設置を決め、プロポーザル方式により運営者を募集し、ＮＰＯ法人Next　Generationの提案が採用された。高校生のための自主的な学びの場だけでなく、高校生同士の交流の場、前橋市と高校生・若者がつながる場にもなっている。

ＮＰＯ法人Next Generation･･･2016年11月、高校生理事６名で発足した。学習の機会に恵まれない子どもたちへの学習支援活動や高校生学習室の管理運営、高齢者・非営利団体へのＩＴ支援活動などを行っている。

NPO法人 Next Generation ＨＰ

取組３　若者の声に基づいた公民館事業

邑楽町中央公民館ＨＰ

邑楽町中央公民館（邑楽町）

子ども・若者に広く公民館を知ってもらい利用してもらうことを目的に、フリースタイルダンスバトル「邑踊（むらおどり）」を年１回開催している。町内外から出場者を募集し、北は宮城県など県内外から100名を超える若者が参加している。また、子ども・若者が主体的に関わる「邑っ子フェス」を令和４年度から開催している。

【ポイント・成果】　職員が町役場前の電灯の下で練習している若者たちと会話をする中で、若者のダンスによる自己表現の場の必要性を理解した。ダンス指導者に相談し、教育委員会生涯学習課と一緒にダンスバトルを開催することで一致。平成２８年度から実施し、邑楽町の子ども・若者の活動の活性化につながっている。また、多目的室（ダンス）利用の飛躍的な増加など、公民館が子ども・若者にとっても身近な存在になっている。

取組４　話し合いの手法による若者の地域参加

沼田市ＨＰ

持続可能な地域づくり推進事業（沼田市）

高齢化と人口減少による地域の担い手不足、深刻化する地域の課題解決と向き合い、持続可能な地域社会を実現するため、市内の小学校区ごとにコミュニティセンター（旧公民館）を拠点とした地域づくりを令和３年度から進めている。これまで市内６地区において、多様な参加者を巻き込んだ「話し合い」の手法を取り入れた住民相互の学びの場を作り上げてきている。

【ポイント・成果】　この取組では、年齢や性別を問わず多様な人々の参加を重視しつつ、特に若者や女性などの本音を引き出し、世代間での価値観や考え方の違い（重なり）の共有を大切にしている。これまでに延べ1,000名を超える参加のもと、従来型の地域運営のスタイルや事業活動の見直しなど個性ある地域の取組が進みつつある。

若者の参画に向けた体制づくりの３つのポイント

１　きっかけづくり（意識的な場づくり）

○チラシ等による呼びかけだけではなく、若者一人一人に直接働きかける。
○若者が活動できる場所や機会に関する情報発信を工夫（SNS等）する。
○若者が関心をもてるよう、活動内容を工夫する。

２　つなぐ機能

○若者と他世代（地域）をつなぐ機能としての拠点・人の整備をする。
○公民館における事業の企画・立案において、若者と地域を意識的に結び付けるきっかけをつくる。
○活動にともに取り組む中で、若者と地域それぞれの思いや考えをつなぐ。

「つなぐ機能」の一例として「市民活動支援センター」が挙げられます。ボランティア活動やＮＰＯなどに関する相談を受けています。県内の情報は右の「ＮＰＯ・ボランティアのひろば」を御参照ください。

NPO・ボランティアのひろばＨＰ（県民活動支援・広聴課）

３　人材の発掘、ひとづくり

○地域の担い手を育てる仕組みを整える。
○積極的に地域づくりに関わろうとする若者を育成するため、前段階の中学、高校で地域に関わる活動を取り入れ、社会への参画意識を高める。
○年長者が若者の主体性を尊重し、ともに活動に取り組めるよう企画・立案を工夫する。
○活動後に振り返りを行い、若者の取組への賞賛・感謝を伝えることで、若者の達成感や自己有用感を高める。
○世代も性別も超えた多様な人々との話し合いの手法を取り入れることで、若者を含む地域の担い手となる様々な人材を発掘する。